

第 22 回学会報告記

(第 122 回日本循環器学会近畿地方会)

関西労災病院循環器内科の神田貴史です。

今回は先日大阪で行われた日本循環器学会近畿地方会についてお話させていただきます。

1 はじめに

本邦において循環器領域の最も大きな学会は日本循環器学会ですが、その基礎となるものが各地方会です。この地方会では多くの患者さんを対象にした臨床研究についての発表だけでなく、個々の症例報告が多く発表されることが特徴の一つです。

今回 2016 年 11 月 26 日に大阪市で開催された日本循環器学会近畿地方会における当院循環器内科の様子を報告させていただきます。

2 地方会はレジデントにとって絶好の成長の場

当院ではレジデント（後期研修医）を中心に積極的に症例発表を行うよう取り組んでいます。その理由は、希少な疾患や、治療が奏功した症例について世間に対し報告するという学術的な目的はもちろんありますが、主治医として経験した症例についてしっかりと振り返り、検討、考察した結果を他施設の先生方の前で発表することがレジデントの成長に大きくつながっていると考えているからです。日本循環器学会近畿地方会は年 2 回開催され、レジデントや初期研修医の先生の発表の場として絶好の機会です。今回の学会では、今年から循環器内科医としての一步を歩みだした 3 年目の 3 人の先生には 1 人 1 題ずつ発表していただきました。その他レジデント、スタッフ合わせて合計 9 演題の発表を行いました。大学病院を除くいわゆる市中病院の中では 1、2 を争う演題数だったということです。

3 今学会での様子

3年目の先生（河合弘幸医師、畑陽介医師、辻朱紀医師）はまだまだ、発表経験も少なく、緊張した面持ちでの発表となりましたが、質疑応答にもしっかりと答えることができていました。この日の発表までに日々の臨床の合間を縫って夜遅くまで準備を行い、予行演習を行った成果が実った形です。



河合弘幸医師「心不全の症例について」



畑陽介医師「末梢血管の症例について」

5年目の先生も3人（松田祥宏医師、奥野翔太医師、谷仲厚治医師）が発表に挑みましたが、3年目のころから数多くの学会発表を行っているため、堂々と発表を行い、5年目医師にしてすでに貫禄すら漂っている様子でした。彼らは来年以降、当院で研修を行う初期臨床研修医の指導にあたることになりますが、一例一例の患者さんに丁寧に向き合い、発見した新たな知見を発信し、自分の力にも変えていく姿勢を今後の指導の中で後輩に伝えていって欲しいと思います。



松田祥宏医師「不整脈の症例について」

また、6年目以降のスタッフも私神田が不整脈の症例について、南都清範医師（大動脈チーム主任）が大動脈疾患についての臨床研究、石原隆行医師（冠血管チーム主任）が急性心筋梗塞についての臨床研究について発表を行いました。

手前味噌ではありますが、私の発表はYIAセッションで優秀賞をいただくことができました。当院での臨床、研究のレベルの高さを評価していただけたと感じています。



YIA 授賞式



授賞式後に不整脈チーム主任の増田正晴医師と

また、上松正朗部長、真野敏昭部長、飯田修副部長、増田正晴医長はそれぞれ座長を務めあげておられました。

4 まとめ

当院循環器内科の特徴として、分野に偏りなく研究、発表を行っていることがあげられると思います。今回 9 演題の内訳としては、虚血性心疾患に関するものが 3 題、不整脈、デバイス治療に関するものが 2 題、心不全に関するものが 2 題、大動脈、末梢血管疾患に関するものが 2 題でありました。循環器疾患は非常に多岐にわたる領域であり、そのいずれもが重要で、欠かすことはできません。我々はチームの力でそれらに立ち向かっています。

医療関係者の皆様、患者様にかかわらず、多くの方に当科の活動を少しでも知っていただければ幸いです。当院では熱意ある初期臨床研修医、後期臨床研修医を広く募集しております。詳しくは職員募集ページをご覧ください。

以上、第 22 回学会報告記でした。